

厚生 福祉


 時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社
 昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
 毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
 購読料金 税抜月額4,100円
 本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。
 ©時事通信社2017
 ◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)
 kousei-dokusha@jiji.com

目次

特集 社会福祉法人の経営戦略(所感ノート) — その10 社会福祉法人の置かれた立場	2
ニュース 仕事付き高齢者住宅を後押し	5
ニュース 21世紀出生児縦断調査より 親が喫煙する子どもの肥満率高い	6
中央省庁ニュース	8
国土管理で自治体向け事例集 人口減少踏まえ検討を/上下水道改革、県が役割を 公営企業経営で報告書/メタボ健診低調なら罰金増 企業健保に18年度から	
進言(大分県)	9
2017年度厚生・労働・環境関係予算	
⑫新潟県、山梨県、岡山市	10
インタビュールーム(島根県)	13
事件・事故・裁判	14
私たちの工夫	15
社説拝見 3月後期	16
ニュースフラッシュ	18
引きこもりの高校中退者を支援/子どもの貧困対策で担当課新設/保育士に月額3万円支給/患者付き添い家族に民泊/下水道の「見せる化」促進/教員採用で有資格者に加点 ほか	
さくいん、主要日誌 3月	21、22

語録

私たちの事業所には、現場から生まれた手作り語録のついた日めくりカレンダーがあちこちになら下がっている。

初日の一日は「現場に神宿る」である。この言葉は、弁護士であった中坊公平氏の言葉で、現場に物事の本質があり、迷ったり悩んだとき、回答は現場の中にある、というような意味である。

経営者としての私自身のキャリアのスタートも病院の運転手から始まり、現場の雑務から事務系に転じているので、組織にとって何が大切かと考えたとき、常に本質は現場の中にあることがとても良く分かる。私たちの現場とは、利用者の笑顔をどう創り出すかということである。

社会福祉法人新生活会
 名譽理事 長・石原美智子



高齢者介護が制度化され、利用し易くなったことはいいことだが、いつの間にか人間を見るよりも制度に気が向いているようで恐い。

世の中がどんどん忙しく、煩雑になり、物事の本質が見えにくくなってきているときに、私たちは時々立ち止まって振り返ることによってまた元気が湧いてくる。

ちなみに語録は「自己満足の仕事をしない」「おむつは最後の手段」「困難ケースは宝物」「お互いの成長を喜び合える職場」「良い仕事は、良い数字を生む」「理念は言葉ではなく実行である」「福祉とは誰もが犠牲にならないこと」「福祉の平等は等しく分けることではない」「他責からは何も

始まらない」「誰のために、何のために」「当たり前」前ことに専門性が潜んでいる」などなど、一か月分の三十一あり、毎月繰り返している。

対象者が意思を伝えるにくい職場では、常に職員側はチームを作り、そのチームの質を上げていかなければならないが、意外と仲間には注意をしにくくて悩んでいる職員は多い。

語録は向かう方向を明確に示してくれていてお互いの切磋琢磨に効果があるという。もちろん粗を探せば何でも出てくるだろうが、少なくともこちらの方向へみんな努力をしていると口に出せる職場は一応健康なのではなからうかと思ってる。

今朝もあちこちの職場ではこの語録を口に出して、お互いの努力する方向を確認しあいながら「頑張ろう!」と一日を始めているはずである。